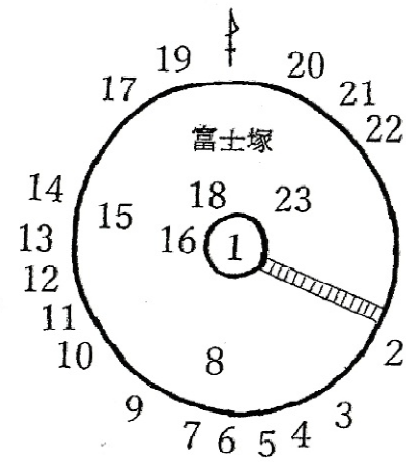
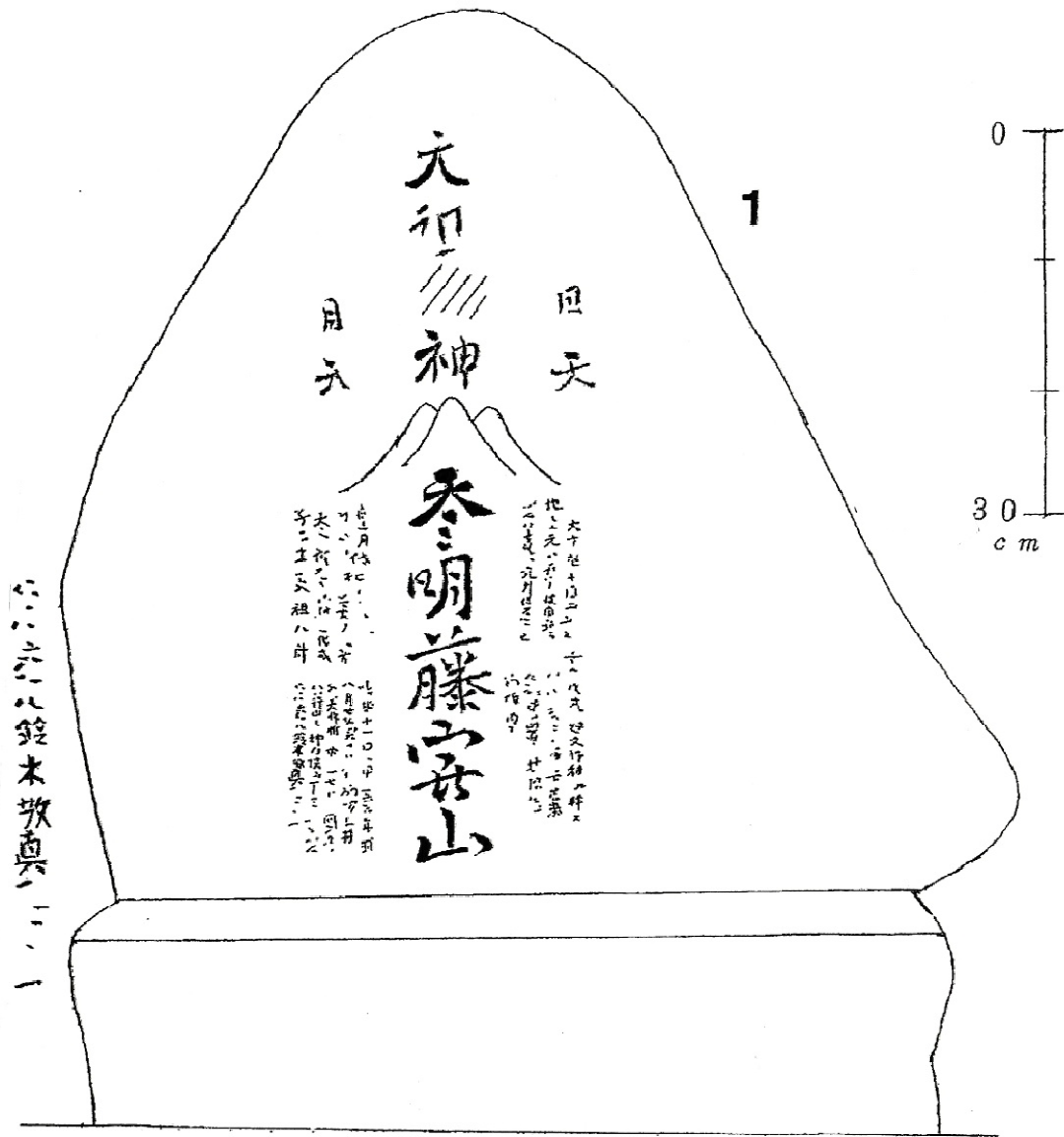


一・恩間にある修験者の富士塚

加藤 幸一

「富士塚」とは、富士講の人たちが富士山に模して築いた塚(小山)で、順天堂越谷病院北西の修験道の家柄だった民家の敷地内に現存している。明治の半ばに造られたと思われる。そこに設置された23基の石塔について紹介する。

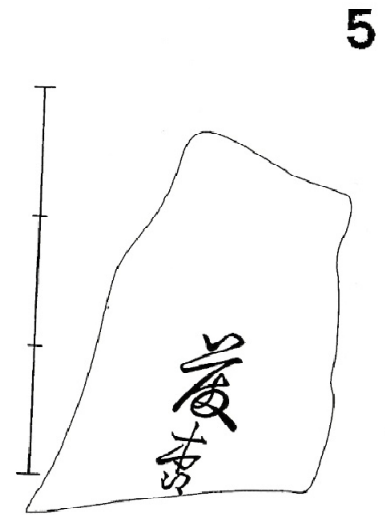
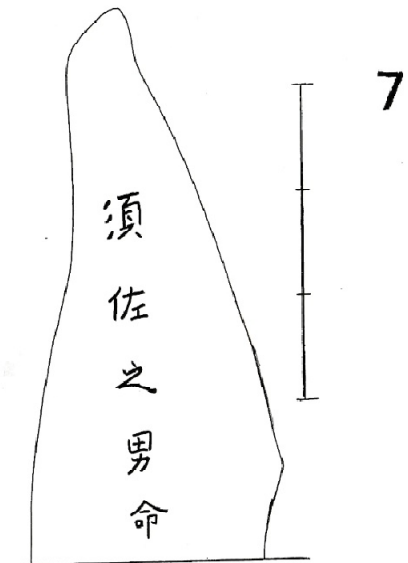
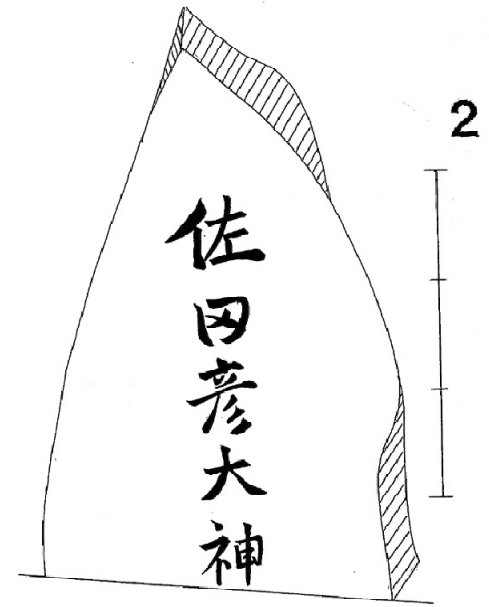
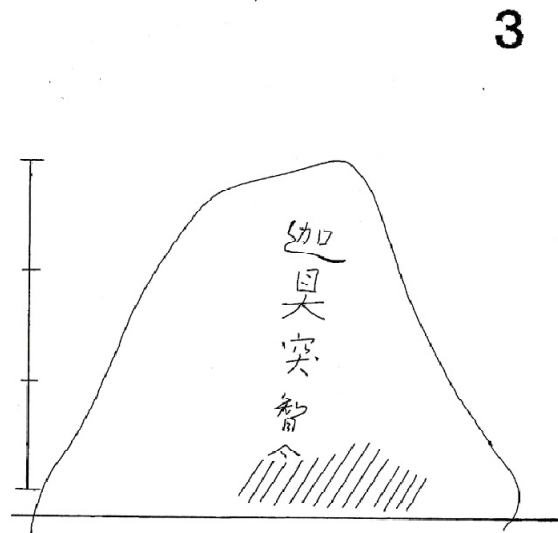
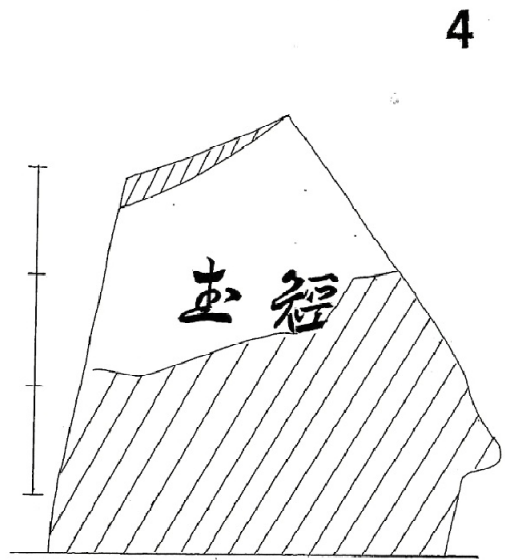
図中の番号は、石塔の通し番号である。

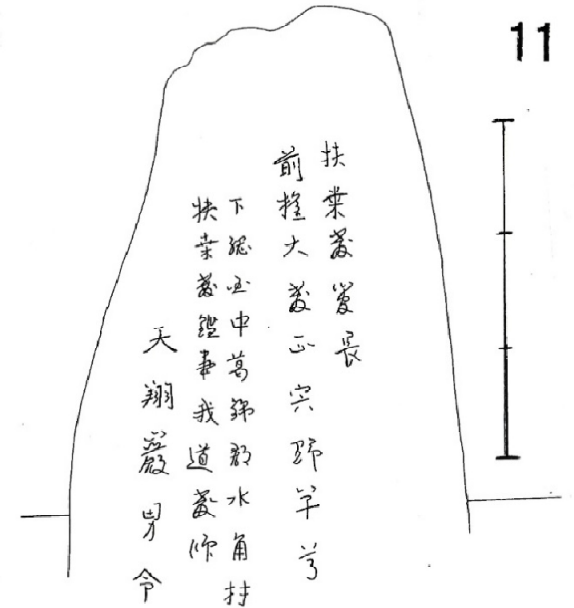
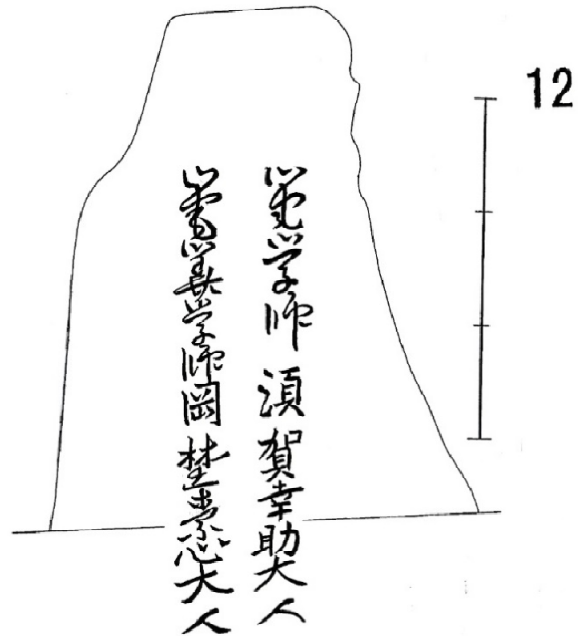
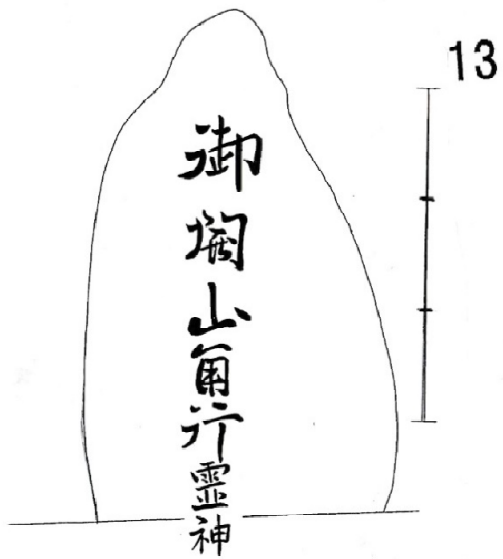
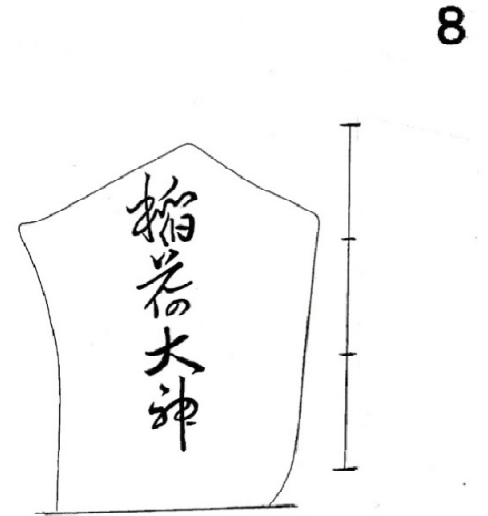
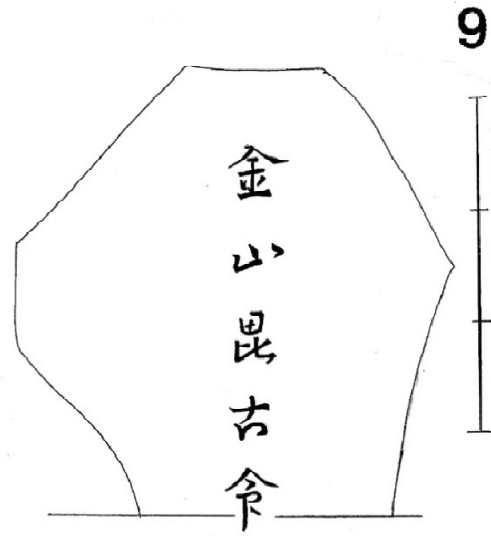
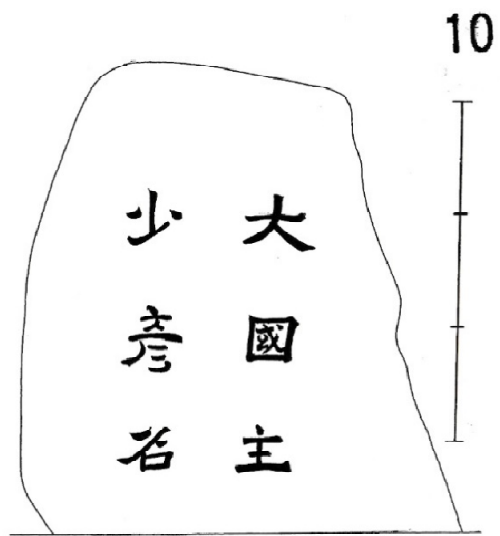


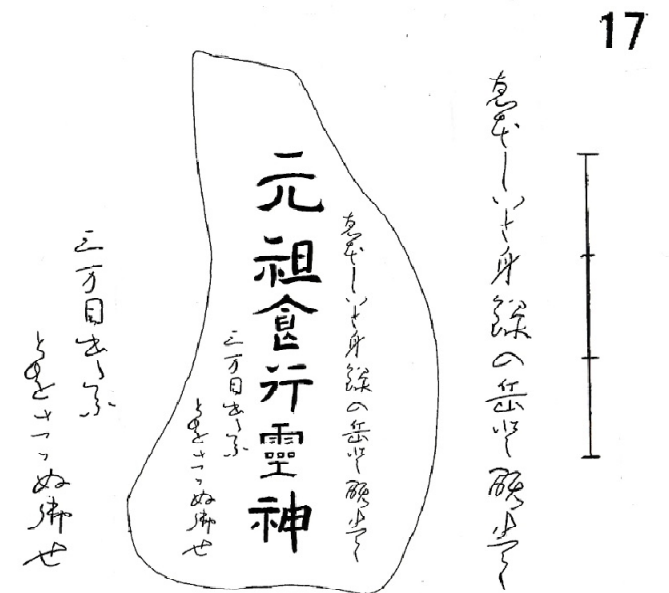
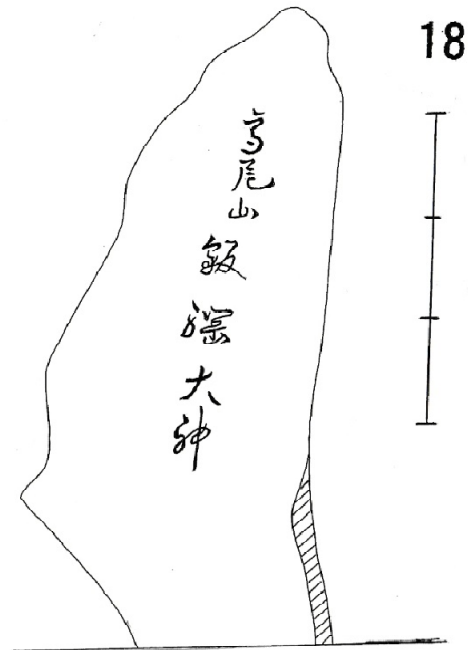
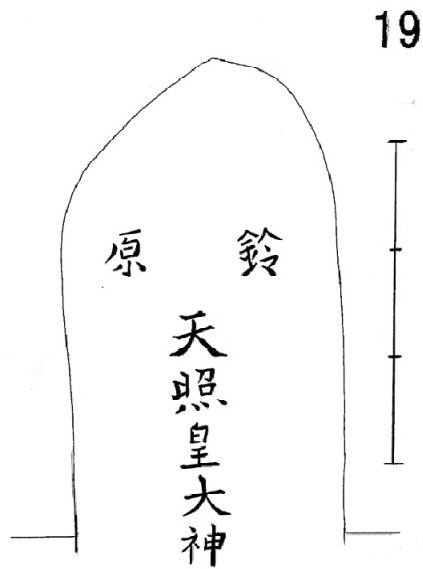
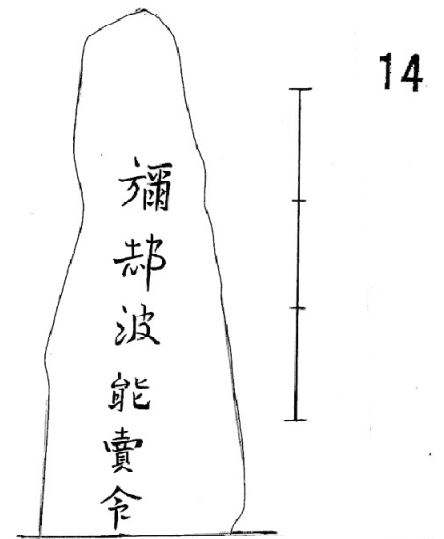
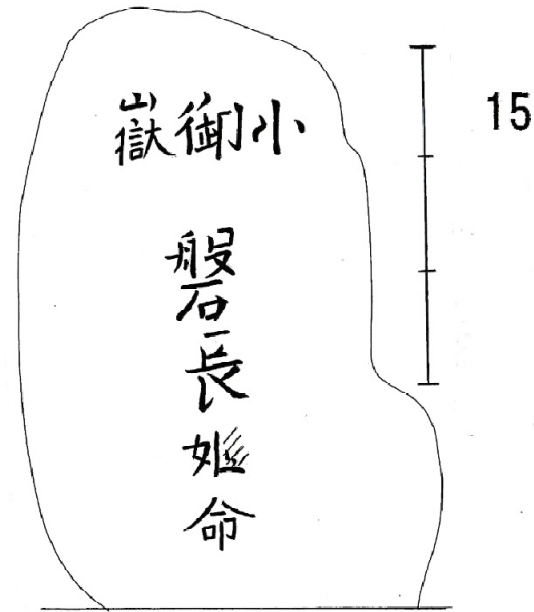
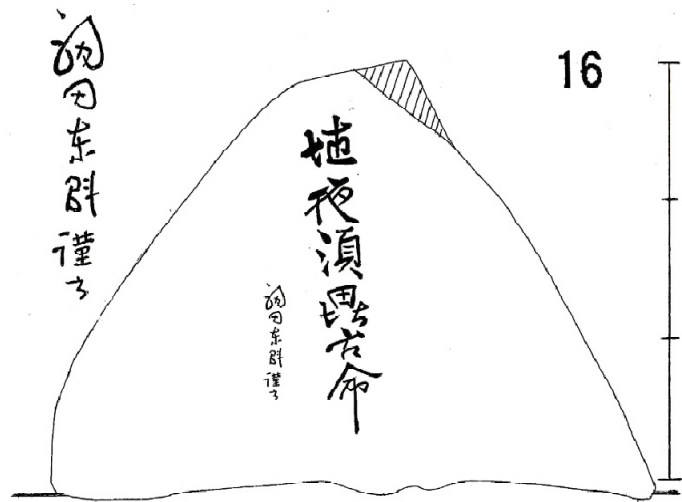
高さ約1.7メートル、直径約8メートル

※一般公開していませんので、敷地内には入れません。

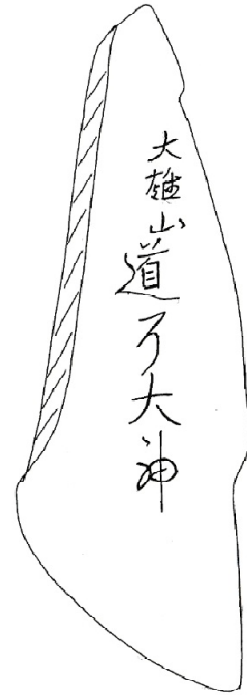
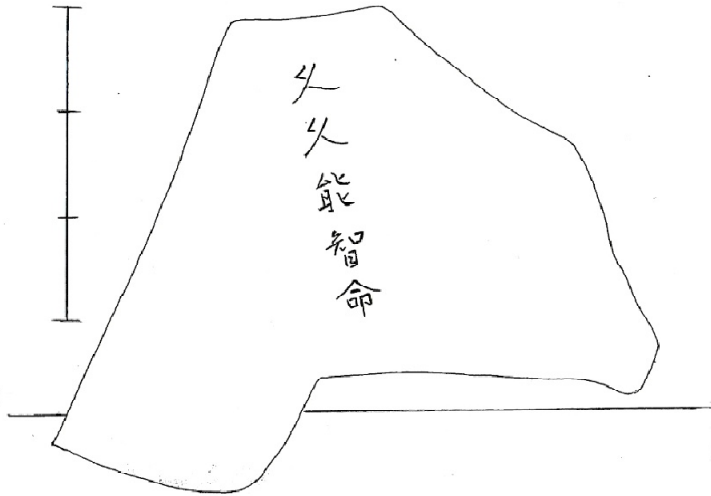
※鈴木敬真は先達を務め、地元の有力者でもあった。



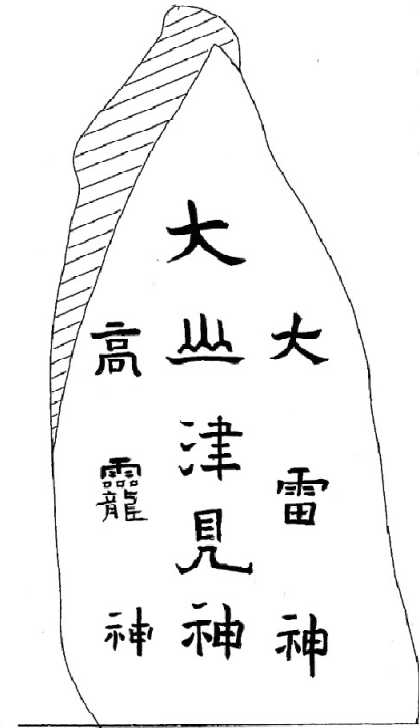




22



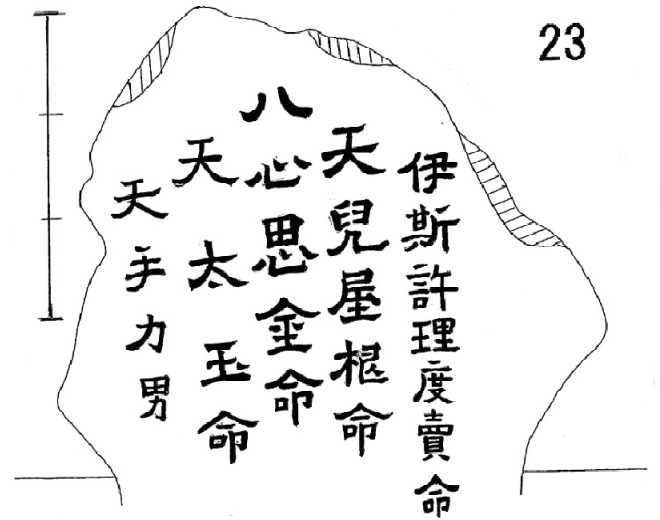
21



20



23



1 「表面」

日天 につてん
元祖 霊神 れいじん
がつてん

参明 藤開山 さんみょうとうかいせん

※「元祖 霊神」とは、富士講開祖の
長谷川角行をいう。

※「参明 藤開山」とは、食行 身祿をいう。

※富士講の先達の「鈴木 敬真」の文字あり。

敬真は現当主の高祖父、俗名は百太郎、

「ももたろう」と読ませたか。

安政2年（一八五五）生まれ。

「裏面」

《中央》

明治十八年

一月 庚□□建

《向かつて左端》

松伏村 まつぶし

石工 いしく

伊藤平蔵 いとうへいざう

謹彫 じんせう

※明治十八年は、一八八五年、
明治十八年一月の造立か。

2

佐田彦大神 さだひこおおかみ

3

迦具突智命 かぐつちのみこと

4

短□□□

武□□□

5

□□（藤森力）□□

6

二世 日旺大我 にちおうだいが
三世 明心大我 げっしん
四世 月旺大我 げつおう
五世 月行□仲大我 げつぎやう

※「□仲」は、「削仲」

7

須佐之男命 すさのおのみこと

8

稻荷大神 いなりおおかみ

9

金山毘古命 かなやまびこのみこと

10

大国主 おおくにぬし
少彦名 すくなひこな

11

扶桑教管長 ふうそうきょうくわんぢやう
前権大教正 前野半尊 ぜんごんたいきやうせい ぜんのなはんそん
下総国中葛飾郡水角村 しもとうこくなかかつしかおひすいかく
扶桑教 鑑事 我道 教師 ふうそうきやう かんじ ぎだう ぎあうし
天翔 巖男意命 あまがけの いわおのいこと

※「鑑事」は、監事の意味か。

※「巖男意」は「いわお」と読むのか。

12

筆学師 須賀幸助 大人 ひつがくし じゅがきやくすけ たうじん
笔算学師 岡埜□心 大人 ひつざんがくし おかの うし

13

御開山 角行 霊神 いかいせんかくぎやうれいじん

14

弥都波能売命 みつはののめのみこと

15

小_こ 御_み 警長姫命
いわながひめのみこと
嶽_{たけ} 御_み 警長姫命

16

〔表面〕

埴夜須毘古命
はこやすびこのみこと
細田東斟謹書
ほそだとうしんげんじよ

〔裏面〕

宇比地邇神
うひぢにのみかみ
須比知迹神
すひぢにのみかみ
角_{つの} 織_く 神_{のみかみ}
活_{いく} 織_く 神_{のみかみ}
大斗能地神
おおとのぢのみかみ
大斗能辨神
おおとのへのみかみ
於母陀琉神
おもだるのみかみ
吾屋惶根神
あやかしこねのみかみ
伊邪那岐神
いばなはのみかみ
伊邪那美神
いばなみののみかみ
豊斟淳神
とよくむめのみかみ
国之底立神
くにのそこたちのみかみ

解釈(大谷達人氏)
おおたに たつを

「烏帽子岩は身祿岳と呼ばれるようになって以来、どの方向からも見ても天の光が射し込み有難い所となったので、今の御世は戸を閉めて暗くなるような所ではなくなった」

18

高尾山 飯綱大神
たかおせん いづなのおおかみ

19

鈴_{すず} 原_{はら} 天照皇大神
てんしようたいじん

※「鈴原」とは「天照大神社」のことか。

20

大雷神
おおいかづちのみかみ
大山津見神
おおやまつみののみかみ
高竈神
たかおかみののみかみ

※「竈」は、拡大すると「竈」

21

大雄山 道了大神
だいゆうざん とうりょうのおおかみ

※㊦の模写



※「斟」の文字の解説は荒井正代氏

17

身祿の岳と 顕れて
みろくのたけ あらわ
爰_ほほしいは 身祿の岳と 顕れて
ほほしいは みろくのたけ
元_が祖_そ食_じ行_{ぎやう}靈_{れい}神_{しん}
がん そ じ ぎやう れい しん
三万目出た心
みまんめでとう
とをさゝぬ御世
とをさゝぬみよ

23

伊斯許理度賣命
いしこりどめのみこと
天兒屋根命
あめのこやねのみこと
八心思金命
やちのおもひかねのみこと
天太玉命
あめのふたたまのみこと
天手力男
あめのたぢぢらお

22

久久能智命
くくのちのみこと

※「えぼしいわ」は、「烏帽子岩」
※「とをさゝぬ」は、「戸を差さぬ」

※1と6と17の解釈は、大谷達人氏の協力を得ました。